チャイナ・プラスワンとしてのインドネシア 繊維産業・伝統工芸 中部ジャワ を中心として

<table>
<thead>
<tr>
<th>著者名</th>
<th>平井 郁子</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>雑誌名</td>
<td>大妻女子大学家政系研究紀要</td>
</tr>
<tr>
<td>巻</td>
<td>号</td>
</tr>
<tr>
<td>ページ</td>
<td>平行</td>
</tr>
<tr>
<td>発行年</td>
<td>平成28年</td>
</tr>
<tr>
<td>閲覧日</td>
<td>2016-03-03</td>
</tr>
</tbody>
</table>

URL http://id.nii.ac.jp/1114/00006341/
チャイナ・プラスワンとしてのインドネシア
—繊維産業・伝統工芸（中部ジャワ）を中心として—

平井郁子
大妻女子大学短期大学部家政学科

Indonesia as China Plus One
—Textile Industry and Traditional Craft (Central Java)—

Ikuo Hirai

Key Words: インドネシア（Indonesia）、アセアン（ASEAN）、チャイナ・プラスワン（China plus One）、人口（Population）、失業率（Unemployment rate）、バティック（Batik）

要旨

日本の繊維産業は過度の中国一極集中を避ける観点からチャイナ・プラスワンを求める、ASEAN諸国を
開拓してきた。中でもインドネシアは有利候補とされ、実際にインドネシアに進出している会社も多い。
なぜ、インドネシアがチャイナ・プラスワンとして重要視されるのか、その理由と今後の課題を次に示した。

1）チャイナ・プラスワンとして重要視される理由

アジア製品が、大きな海に面した国土と世界第4位と言われる人口があるから。ここから豊富な労働力はいわゆる「人口ボーナス」や、消費力の高さが求められる。そして、豊富な資源の供給地である。労働集約型産業である繊維産業にとって大変有利である。

2）今後の課題と展望

インフラ整備、技術者の養成、情報網の整備などの課題である。さらに生活習慣、宗教（イスタム教）の違いがあげられる。これらのことから繊維産業において今後の、教育機を上げた技術者の養成等をすることにより、人口ボーナスを最大限に利用できると考えられる。また、国を挙げた伝統工芸であるバティックの後継者を教育し、伝統に加え新しいバティックを生み出そうと、繊維産業に力を入れていることも見逃せない。

1. はじめに

近年、中国、ベトナムに次いでインドネシアから日本への繊維製品の輸出が伸び、重量、金額ベースともに増加が続いている。
3. 調査結果および考察

3-1 インドネシアの歴史

「インドネシア」は1945年8月17日の独立宣言において、「オランダ領東インド」から正式に国号となった。国土は約189万平方キロメートル（日本のおよそ5倍）、人口は約2億4990万人（2013年インドネシア政府統計）。首都はジャカルタ（人口997万人：2013年インドネシア政府統計）、民族はマレー系（ジャワ、スンダ等約300種族）、言語はインドネシア語、宗教はイスラム教88.1%、キリスト教9.3%（プロテスタント6.1%、カトリック3.2%）、ヒンズー教1.8%、仏教0.6%、儒教0.1%、その他0.1%（2010年インドネシア宗教省統計）となっている。インドネシアは地理的に海上における東西貿易の要衝に位置し、古来から多くの外来文化的風に吹かれており、その影響をこうもりたまっている。紀元前2世紀ごろから貿易を通じて徐々に南インドからヒンドゥー教、仏教文化を受入した。ついで11世紀ごろインドのアラビア系地方の商人たちにより、イスラム文化がもたらされている。文化受容のパターンは西欧文化も同様で、西欧民主主義や共産主義の思想は、オランダ植民地支配に抗する民族独立運動への有力な武器とされた。さらに西欧思想は伝統文化と融合されていた。2004年民主主義を確立し、政治体制の安定化を確立した。

3-2 インドネシアの経済状況

2014年インドネシア政府統計局のデータより、2013年インドネシアGDP（名目）8,696億ドル、1人当たりGDP3,500ドル、経済成長率（実質）5.8%、物価上昇率8.4%、失業率6.3%（2013年）約2,100万人（完全失業者及び求職中の総計）となっている。インドネシアの失業率はASEAN諸国の中でも高い。人口構成要素からみるとインドネシアの人口ポーナス期間は1970年～2030年頃まで続くとされ、近隣諸国の中で長いとされているため、生産年齢人口に対して、就業の機会を与える必要がある。また、2013年日本の経済援助実績は、無償資金援助協力10,6億円、有償援助協力82億円、技術協力90億円（JICA実施分）である。主要援助国は、日本52.5%、豪州11.7%、フランス11.5%、米国9.7%、ドイツ6.1%の順となっている（2010年OECD／DAC）。為替レートは、1ドル＝約12.26ルピア（2014年12月1日インドネシア中央銀行）である。

3-3 インドネシアの貿易

2013年の総貿易額は、輸出1,825.5億ドル、輸入1,866.3億ドル（政府統計）であり、主要貿易品目は、輸出（石油・ガス19.5%、鉄物性燃料13.9%、穀物・植物油11.2%、繊維7.2%）、輸入（石油・ガス22.2%、一般機械機器14.8%、機械・電気部品9.9%、繊維4.6%）である。

主なインドネシアの繊維製品の輸出国は中国、韓国、日本など東アジアが76.1%を占めている。

また、原油・天然ガス・石炭などのエネルギー資源、鉱物資源が豊富であるため、「脱工業化」をはかる「オランダ病」を発症する可能性が懸念されている。

表2に上記経済規模の主要な国生産量を示す。合成繊維の生産量は中国、インド、台湾、アメリカ、インドネシアが順となっている。インドネシアの生産資源が豊富であるため、石油化学工業の発展も今後見込まれる。

インドネシアの繊維製品の輸出先の割合は、他の貿易品目の割合よりも少ないが、日本への繊維製品の輸出量は急激に伸びている。

（1）インドネシアからの繊維製品の輸入

表3に日本の2014年1月～4月の衣類輸入額を示す。インドネシアからの衣類輸入は重量ベースで前年同期比16.5%増12,300億円で25%増の317億6,800万円である。インドネシアからの輸入が増加しているのは、大手SPA（製造小売業）や、郊外型専門店が調達を強いていることが大きいと考えられる。日系企業も繊維工場への投資に積極的で、ネット、帯広方面で生産が充実してきたことに寄るものと考えられる。

3-4 中部ジャワの地域概要

（1）ジョクジャカルタ

中部ジャワに位置し、面積32,571km²の都市で、クラトン（王宮）を中心に発展した都市である。インドネシアの首都として独自の文化を残す観光地でもある。伝統業としてジャワの木（バティック）
表1. 主なインドネシアの繊維品: アパレルの統計
単位: 100万ドル

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>2005</th>
<th>2010</th>
<th>2011</th>
<th>2012</th>
<th>2013</th>
<th>2013（%）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>全世界</td>
<td>8,854</td>
<td>11,603</td>
<td>13,684</td>
<td>12,869</td>
<td>13,056</td>
<td>8,521</td>
</tr>
<tr>
<td>1)</td>
<td>4,900</td>
<td>6,880</td>
<td>8,117</td>
<td>7,590</td>
<td>7,759</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>東アジア</td>
<td>1,466</td>
<td>2,355</td>
<td>3,028</td>
<td>3,214</td>
<td>3,494</td>
<td>6,487</td>
</tr>
<tr>
<td>2)</td>
<td>289</td>
<td>496</td>
<td>835</td>
<td>1,079</td>
<td>1,433</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>日本</td>
<td>486</td>
<td>643</td>
<td>1,016</td>
<td>1,095</td>
<td>1,208</td>
<td>333</td>
</tr>
<tr>
<td>2)</td>
<td>121</td>
<td>182</td>
<td>343</td>
<td>487</td>
<td>646</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>欧州</td>
<td>2,039</td>
<td>2,724</td>
<td>3,308</td>
<td>2,865</td>
<td>2,879</td>
<td>317</td>
</tr>
<tr>
<td>2)</td>
<td>1,261</td>
<td>1,676</td>
<td>2,030</td>
<td>1,735</td>
<td>1,651</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>EU</td>
<td>1,768</td>
<td>2,166</td>
<td>2,588</td>
<td>2,184</td>
<td>2,150</td>
<td>249</td>
</tr>
<tr>
<td>2)</td>
<td>1,213</td>
<td>1,594</td>
<td>1,933</td>
<td>1,640</td>
<td>1,563</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>北米</td>
<td>3,264</td>
<td>4,575</td>
<td>5,066</td>
<td>4,542</td>
<td>4,542</td>
<td>452</td>
</tr>
<tr>
<td>2)</td>
<td>2,842</td>
<td>4,237</td>
<td>4,693</td>
<td>4,182</td>
<td>4,199</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>アメリカ</td>
<td>3,072</td>
<td>4,313</td>
<td>4,757</td>
<td>4,274</td>
<td>4,267</td>
<td>433</td>
</tr>
<tr>
<td>2)</td>
<td>2,713</td>
<td>4,045</td>
<td>4,457</td>
<td>3,977</td>
<td>3,990</td>
<td>—</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1) 繊維品輸出、2) アパレル輸出
出所：インドネシア通関統計

表2. 化合繊の生産量
単位: 1,000トン

<table>
<thead>
<tr>
<th>国</th>
<th>品種</th>
<th>2005</th>
<th>2010</th>
<th>2011</th>
<th>2012</th>
<th>2013</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>中国</td>
<td>化合繊（S+F）</td>
<td>17,153.0</td>
<td>29,135.0</td>
<td>32,821.0</td>
<td>37,097.0</td>
<td>39,990.0</td>
</tr>
<tr>
<td>インド</td>
<td>化合繊（S+F）</td>
<td>2,144.5</td>
<td>3,660.9</td>
<td>3,863.2</td>
<td>3,996.3</td>
<td>4,183.3</td>
</tr>
<tr>
<td>台湾</td>
<td>化合繊（S+F）</td>
<td>2,002.3</td>
<td>2,340.5</td>
<td>2,158.3</td>
<td>2,064.6</td>
<td>2,072.6</td>
</tr>
<tr>
<td>アメリカ</td>
<td>化合繊（S+F）</td>
<td>2,799.1</td>
<td>1,873.2</td>
<td>1,845.0</td>
<td>1,922.9</td>
<td>2,013.3</td>
</tr>
<tr>
<td>インドネシア</td>
<td>化合繊（S+F）</td>
<td>1,517.0</td>
<td>1,553.6</td>
<td>1,616.4</td>
<td>1,654.9</td>
<td>1,800.7</td>
</tr>
<tr>
<td>日本</td>
<td>化合繊（S+F）</td>
<td>1,022.0</td>
<td>701.8</td>
<td>704.0</td>
<td>670.2</td>
<td>656.9</td>
</tr>
</tbody>
</table>

S: ステープル、F: フィラメント
出所：Fiber Organon

3-5 ソロの繊維工場
2015年3月ソロにあるPT.BENGWAN SOLO GARMENT INDONESIAとPT.DAN LIRISの2つの工場を視察した。この2つの工場を例にインドネシアの繊維工場としてのチャイナ・プラスミンを考察した。

（1）PT.BENGWAN SOLO GARMENT INDONESIA
日鉄住金物産（株）の関連会社である。資本金150万USD（日鉄住金物産：99％、日鉄住金物産イ
### Table 3. 2014.1～4 日本の衣類輸入量（通算数）

<table>
<thead>
<tr>
<th>位</th>
<th>国・地域</th>
<th>数値 (億)</th>
<th>シエア (%)</th>
<th>金額 (100万円)</th>
<th>シエア (%)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>中国</td>
<td>248,243</td>
<td>75.9</td>
<td>720,426 (▼0.6)</td>
<td>71.5</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>ベトナム</td>
<td>25,403</td>
<td>7.8</td>
<td>83,525 (21.5)</td>
<td>8.3</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>インドネシア</td>
<td>11,820</td>
<td>3.6</td>
<td>31,768 (25.1)</td>
<td>3.2</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>イタリア</td>
<td>711</td>
<td>0.2</td>
<td>26,182 (2.9)</td>
<td>2.6</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>バングラデシュ</td>
<td>9,616</td>
<td>2.9</td>
<td>21,536 (25.6)</td>
<td>2.1</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>ミャンマー</td>
<td>6,553</td>
<td>2.0</td>
<td>18,397 (65.5)</td>
<td>1.8</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>タイ</td>
<td>4,735</td>
<td>1.4</td>
<td>17,893 (21.3)</td>
<td>1.8</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>カンボジア</td>
<td>4,913</td>
<td>1.5</td>
<td>14,792 (114.8)</td>
<td>1.5</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>インド</td>
<td>3,242</td>
<td>1.0</td>
<td>13,056 (8.1)</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>中国</td>
<td>533</td>
<td>0.2</td>
<td>6,831 (▼1.3)</td>
<td>0.7</td>
</tr>
<tr>
<td>ASEAN</td>
<td>57,282</td>
<td>17.5</td>
<td>176,659 (30.6)</td>
<td>17.5</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>EU</td>
<td>1,329</td>
<td>0.4</td>
<td>38,831 (▼7.1)</td>
<td>3.9</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>全世界</td>
<td>326,916</td>
<td>100.0</td>
<td>1,007,573 (5.1)</td>
<td>100.00</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

順位: 合計金額／レート (2014.1 ～ 4) 1ドル = 102.47円
出所: 日本貿易統計

インドネシア現地法人：1%で2001年に設立された。イオン、良品計画、デズニー認定工場として、郊外店、量販店、専門店向け紳士衣料の縫製工場で、市場は対日100%である。生産アイテムは形状安定性ドレスシャツ、ビジネススーツ、ジャケットなど、スーツ9万着／年、シャツ168万枚／年を生産している。シャツの縫製の様子を写真1 に示す。敷地面積は22,000㎡、シャツ工場（裁断5ライン、縫製379台、仕上げ68台）、スーツ工場（裁断2ライン、縫製260台＜内ジャケット170台、バンツ90台＞、仕上げ47台）となっている。従業員数は1,006名 (2014.12現在)、勤務時間は平日8:00～16:30、土曜日8:00～12:30である。生地はインドネシアに進出している日系縫製会社4社から調達、設備は全て日本から持ち込み、技術管理は日本人が常駐し、日本式徹底した品質管理を行っている。

日鉄住金物生 (株) は、中国の4工場を閉鎖してインドネシアに合わせて5工場を持つ。中国の工場を閉鎖した大きな理由は、人件費の上昇による、日本向けの安くて良い製品が得られなくなったためである。資金は平均200ドル前後、高卒は工場のライン、大卒は事務や貿易のスタッフとして仕事をしている。この工場の従業員は、高卒以上であるとのことである。

表4にBASIC SALARY LIST、表5に入荷・失業率の関係、図1に日系企業の賃金水準を示す。表4よりインドネシアの賃金が安く、中でも中部ソロの2015年の月収は約12,224円で同じインドネシアのジャカルタの月収の1/2である。図1の日系企業の賃金水準を調べた結果、製造業の作業員の賃金は、182ドルでベトナムの107ドルより高いものの、非
表 4. BASIC SALARY LIST（UMK）

<table>
<thead>
<tr>
<th>年</th>
<th>2010</th>
<th>2011</th>
<th>2012</th>
<th>2013</th>
<th>2014</th>
<th>2015</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>DKI Jakarta</td>
<td>1,118,000</td>
<td>1,290,000</td>
<td>1,529,150</td>
<td>2,200,000</td>
<td>2,440,000</td>
<td>2,700,000</td>
</tr>
<tr>
<td>Bandung City</td>
<td>1,118,000</td>
<td>1,188,435</td>
<td>1,271,625</td>
<td>1,538,703</td>
<td>2,000,000</td>
<td>2,310,000</td>
</tr>
<tr>
<td>Surabaya</td>
<td>1,031,500</td>
<td>1,115,000</td>
<td>1,257,000</td>
<td>1,740,000</td>
<td>2,200,000</td>
<td>2,710,000</td>
</tr>
<tr>
<td>Solo City</td>
<td>785,000</td>
<td>826,252</td>
<td>864,450</td>
<td>915,900</td>
<td>1,145,000</td>
<td>1,222,400</td>
</tr>
</tbody>
</table>

出所：PT Nissenken Indonesia

表 5. 人口と失業率の関係（2013年）

<table>
<thead>
<tr>
<th>国</th>
<th>インドネシア</th>
<th>マレーシア</th>
<th>ベトナム</th>
<th>フィリピン</th>
<th>タイ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>失業率（％）</td>
<td>6.3</td>
<td>3.1</td>
<td>3.6</td>
<td>7.1</td>
<td>0.1</td>
</tr>
<tr>
<td>人口（万人）</td>
<td>24,900</td>
<td>2,995</td>
<td>9,250</td>
<td>9,234</td>
<td>6,593</td>
</tr>
</tbody>
</table>

出所：外務省[ODA] 広報・資料

図 1. 事業所企業の設備水準（2010年）

出所：東海染工（株）インドネシア

製造業のスタッフの賃金は、他の日系企業の中でも最低の302ドルとなっている。これは、就学率が関係している。外務省資料、インドネシア共和国国家教育省資料2013年度統計より、就学率は、小学校95.71％、中学校78.43％、高等学校58.2％、大学28.57％となっている。中学校は1994年に義務化がスタートしたばかりで、100％に至っていないのが现状である。前述したようにインドネシアは人口と失業率が近隣諸国に比べて高い。「人口ポーナス」時期はすでに始まっているが、就労年齢の失業率も高くなっている。街中にはストリートチョコレートと呼ばれる子供たちで溢れている。

（2）PTDAN LIRIS

東海染工（株）の協力会社であるが、資本関係はない。1974年にBATIK KERIS（1928年にバティックの家内工房をつくり、1971年BATIK KERIS設立）の専用メーカーとしてPTDAN LIRISを設立、その後2004年BATIK KERISを親会社として分離した。現在、敷地面積555,000 m²（東京ドーム約12倍）、従業員数10,000名（DANLIRTA等、7,500名、子会社2,500名）である。PTDAN LIRISは、紡績、織布、染色加工、縫製までとする一貫工場を
3-6 インドネシアの伝統工芸教育

インドネシア国立芸術大学ジャクジャカルタ校（Institut Seni Indonesia Yogyakarta-Indonesia）を例にインドネシアの伝統工芸を考察した。

インドネシア国立芸術大学ジャクジャカルタ校は、旧制の美術、西洋音楽、舞踊の専門学校が統合され、1984年国立芸術大学として設立された。インドネシアには、国立芸術大学として3校のISI（Institut Seni Indonesia）があり、ジャクジャカルタ校はその中で最大規模の3学部（Visual Arts, Performing Arts, Recording Media Arts）を有する芸術系高等教育機関で、全学部に博士課程が設けられている。

Visual Arts学部のFine Arts, Craft, Design学科があり、Craft科は、更に材料、金属、パティック、革、セラミック・陶器に細かく専攻に分かれている。

大学の方針は、「ジャクジャカルタは、世界的なパティックの町であり、専門家の育ててゆく使命がある。文化的背景、アイデンティティーを学ぶようなシステムを作っている。」の言葉を含み、その学科を学ぶにしても、パティックは必修科目とされている。また、ITを取り入れ、スキルアップさせてゆきたい。最新型トレンディをしっかり学び伝統を超えたもの、新しい現代的なものを作っていきたい。」という大学の方針である。教育システムは充実し、3年生の後期は現場でのパティックの作品づくり、前期・後期の休暇にはジャクジャカルタ以外のパティックを調べに行く研修、パティックデザインコンテストへの参加、パティックデザインを活用してカルテルへの参加、ジャクジャカルタファショニング選考の参加など、積極的に作品を発表し、学生の力を引き出す工夫をしている。

更に、卒業制作では、パティックの歴史や他の地域のパティックなど、今まで学んだものの活かして作品を作らせることで、新しいパティック作品の創造に力を入れている。現代デザインの中にモチーフとしてパティックを取り入れた素晴らしい作品を見ることができた。写真3に学生のパティック製作の様子を示す。

インドネシアの繊維産業は、チャイナ・プラスワンとして急速成長をとげているアパレル産業の生産地としての観と、ユネスコから世界無形文化財に認定された伝統的なバティックの伝統産業としての観に分けられる。これらインドネシアの繊維産業は、世界中の人々に貢献している。
4. まとめ

日本の繊維業界界は過度の中国一極集中を避ける観点からチャイナ・プラスワンを求める、ASEAN諸国を
開拓してきた。中でもインドネシアは有力候補とされ、実際にインドネシアに進出している会社も多い。
なぜ、インドネシアがチャイナ・プラスワンとして重要視されるのか、その理由と今後の課題を次
に示した。

4-1 チャイナ・プラスワンとして重要視される理由

一番大きな理由は、大きな海に面した国と世界第4位と言われる人口である。ここに豊富な労働
力によく「人口ホース」や、消費力を育むことができる。そして、豊富な資源の供給地でもある。
日本への繊維製品は、安定で品質が高いものなので
なければならない。人件費が中国の約1/3と安価
という事は、労働集約型産業である繊維産業に
とって大変有利である。また、日本・ASEAN包括
的経済連携（AJCEP）協定により日本へ輸入す
る際、関税が7%～10%フリーになり日本への輸
入が有利になる。

これらのことから、インドネシアがチャイナ・プラスワンとしての地位を確立し、中国の代わりとし
て将来が見込まれる国である理由である。
Summary

The textile industries of Japan have demanded China plus One from a point of view that avoided excessive overconcentration in China and have developed the ASEAN countries. Above all, Indonesia is considered to be a major candidate, and there are really many companies going into Indonesia. I showed problems and reasons why Indonesia was regarded as important as China plus One.

1. The reasons why Indonesia regarded as important as China plus One
   The biggest reason is the forth population in the world and the country facing the big sea. Abundant workforce so-called “demographic bonus” and consumption power are brought about from these reasons. And it is a supply place of abundant resources. Textiles to Japan must be cheap and good quality. It is very attractive for the textile industries which is labor-intensive industry. Indonesia establishes a position as China plus One and is the pivot that can anticipate as a substitute of China in the future.

2. The problems and prospects
   The first problem is the maintenance of the infrastructure.
   The second is the training of the engineer.
   The third is the maintenance of the intelligence network.
   There are differences in lifestyle and religion. Most employees are Islam.
   It is thought that from the above in the future it is available to be at the advantageous position that can keep "demographic bonus" alive by giving high level education in a textile, and training the engineer.
   The batik which is the traditional craft is educated and is handed down all over the country.